

三井のリフォーム 住生活研究所長 西田 恭子

## 知人の沖縄移住を聞いて

「どこで暮らすかということ、ぜひどこに家を持つかということとは全く同じなのだろうか？ 東京の家を残しつつロングステイ・ショートステイをする方や、東京の家は売却あるいは賃貸住宅に変えて気に入った土地でのびのび生活される方など、いろいろなパターンが出てきたが、皆さんどんなきっかけでそうなったのかしらと考えてしまっ

つらつらそんな疑問を抱えながら各地を訪れると、その土地ならではの新たな魅力を探ることができなかなか楽しいものだが、先日知人が沖縄に移住したというので行ってきた。

急遽金曜日立つことになったが、新幹線で大阪に行くより安い飛行機チケットがあり、スギ花粉症の心配もない沖縄を、もっと知ってみようと思った。いつもはリゾートで行っているが、今回は知人のこともあり、沖縄県庁を訪ねて、この地域の人口動向と移住状況を聞いてきた。

シーサーのモチーフが迎えてくれる正面玄関から入り、案内の方に「移住に関する相談窓口はどこですか

？」と聞き、地域・離島課を案内された。そうかここでは離島という選択肢もあるのかと感じた。突然のことにも関わらず、県庁の職員の方は大変親切に対応してくれ、テーブル席に案内された。沖縄は人口・世帯数の増加率が日本でトップだとか。調べてみると、三七年連続出生率No.1。全国平均を大きく上回り、沖縄では一・九四人だという。子育てしやすく、暮らしやすい土地柄なのだろうか。

通常は「移住支援センター」を訪れるもので、こんな軽い気持ちで県庁を訪れる人はあまりいないのかもれないが、コーヒー栽培に挑戦している方、自然とともに生きる喜びを感じて移住された方などの事例紹介をうけつつ、地縁もなく習慣の違つ、地元言葉も分からない土地への移住は、やはり相当ハードルが高いようにも感じた。

沖縄の住宅はコンクリート住宅が多い。米軍が初めに沖縄でコンクリート住宅を建設したというが、台風が多く、日差し強い沖縄の気候風土にも合っていたし、その構造の強さから沖

縄の人達が真似をしたのがきっかけだということだ。

地域の人と交流し、自然と文化に触れる体験・交流型観光ツアーや、仕事をしながら収入を得ながらのお試し移住のように体験生活ができる企画もあるようだが、公営住宅は満室だし、那覇市や名護市ではなく街から離れたリゾート地では既存物件が少ない。中古住宅を手軽な価格で購入し、リフォームしながら我が家風のリゾートライフを考えると、ものなかなか難しそうだ。

二地域居住にあこがれても、東京に住んでいる私からすると、気軽に日帰りでできる各地と、どつしても泊らなければ行けない所では考えが大きく変わるように思っ

今回は子供達が移住した先である沖縄に、親も移り住んだ知人の暮らしが気になったのと、シュノーケリングを楽しむ暮らしにあこがれ、軽い気持ちでリサーチしてみたものの、簡単にそれを思い立つまではならなかった。しかし、住宅リフォームをキーワードに各地を訪ねる旅は、どうやらこれからも続きそう



西田恭子氏プロフィール＝一級建築士。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」所長。リフォーム設計の経験を活かし、新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。インテリア学会会員。日本建築家協会正会員。